

学科	理容科	担当教員	宗像				
科目名	関係法規・制度	学 年	1年	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15		
教育目標・ねらい	法律が理容業・理容師とどう関わるのか、具体的な事例を通じて学ぶ。国家試験に合格できる十分な点数を取るために、正確な知識を習得する。暗記に頼らず、「なぜ」法律にこう規定されているのか、自ら考える力をつけることを意識し、社会に出た際に直面する問題にも対応できるように学んでいく。						
授業回	学習内容			備 考			
1	(1) 法制度の概要・法とは何か (2) 理容師免許の取得方法 【到達目標】法律とは何かを説明できる。理容師となつた時に、法律とどう関わりを持つのか、法律の存在意義を知る。理容師免許を取得するまでの過程を説明できる。						
2	(1) 用語の定義 (2) 理容師免許制度 【到達目標】法律上「理容」や「理容所」がどういう意味であるかを的確に説明できる。理容師免許の取得後の扱いについて説明できる。						
3	(1) 理容師の守るべき義務 (2) 理容師に対する行政処分 (3) (1) 管理理容師 【到達目標】理容師の負う義務について知るとともに、違反の種類によりどの処分がだされるかが理解する。管理理容師の仕事内容・資格の取得方法など管理理容師の全てを体系的に把握できる。						
4	(1) 理容所の開設 (2) 立入検査 【到達目標】理容所の開設の手順を説明できる。さらに開設後に行われる検査について説明ができる。						
5	(1) 開設者が負う義務 (2) 理容所以外の業務 【到達目標】開設者が負う義務とそれに対する処分を理解する。理容所以外で理容業ができる場合を説明できる。						
6	(1) 行政処分・罰則 【到達目標】誰がどのような違反をするとどの処分、罰則が出されるか、正確に答えることができる。						
7	(1) 行政機関・保健所・衛生行政 (2) 理容師法の知識のまとめ・総整理 【到達目標】保健所が行政機関としてどのように理容所に関わっているかを説明できる。次年度に向けて、理容師法の内容を総整理し、理容師法の内容を説明できる。						
	学科試験						
到達目標	理容師法の基本知識を正確に取得する。 一つ一つの条文の具体的な場面を説明することができる。 その条文が「なぜ」存在しているのか、「何のために」設けられているか、説明することができる。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	教科書（関係法規・制度 公益社団法人日本理容理容教育センター）						

学科	理容科	担当教員	中塚		
科目名	衛生管理（公衆衛生）	学 年	1	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	公衆衛生についての知識を身につけることにより、理容師として安心、安全、かつ衛生的に施術することができる				
授業回	学習内容				備 考
1	1. 公衆衛生の概要 ①公衆衛生の意義と課題 ②公衆衛生の歴史 P.8~15 【到達目標】公衆衛生の意義と公衆衛生が日常生活にどのように結び付くかについて理解し、さらに欧米および我が国において公衆衛生がどのように発展してきたかを説明することができる				小テスト実施①
2	1. 公衆衛生の概要 ③理容師と公衆衛生 ④保健所と理容業 P.16~20 【到達目標】理容師と公衆衛生は、いつごろから、なぜ、深くかかわりをもつようになったかを理解し、また、保健所の機能、組織、業務などについて学び、保健所が地域の保健衛生行政において、中核的な存在であることについて理解し、説明することができる				小テスト実施②
3	2. 保健 ①母子保健 P.21~25 【到達目標】保健所の機能、組織、業務などについて学び、保健所が地域の保健衛生行政において、中核的な存在であることについて理解し、説明するようになる 【前期公衆衛生のまとめと前期期末試験対策】				小テスト実施③
4	2. 保健 ②成人・高齢者保健 P.25~31 【到達目標】我が国における平均寿命、生活習慣病対策および健康増進対策について理解し、説明することができる				小テスト実施④
5	2. 保健 ③生活習慣病 P.31~36 【到達目標】生活習慣病、特にがん、循環器疾患（虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病、COPD、アルコール）について学習し、これらの生活習慣病について簡単に説明できるようになる				小テスト実施⑤
6	2. 保健 ④高齢者の保健と福祉 P.36~39 【到達目標】公衆衛生における高齢者保健、特に、高齢者の保健と福祉、加齢に伴う心身機能の低下について理解し、簡単に説明できるようになる				小テスト実施⑥
7	2. 保健 ⑤精神保健 P.39~42 【到達目標】健康であるということは、身体の健康だけではなく、精神的にも健康でなければならない。公衆衛生における精神保健について理解し、説明できるようになる。 【後期公衆衛生のまとめと後期期末試験対策】				
	学科試験				
到達目標	公衆衛生について学習・理解することにより、事業所の公衆衛生の実践を含め、卒業後に進む理容業界で即戦力となる知識を習得する				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント				

学科	理容科	担当教員	中塚				
科目名	衛生管理（感染症総論）	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15		
教育目標・ねらい	感染症の分類や発生の要因、予防に関する知識を幅広く身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができるようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	1. 人と感染症 ①疾病の歴史 ②感染症発見の歴史 ③感染症と法律 P.82~88 【到達目標】人類は長い歴史の中で感染症とどのように闘ってきたのかについて理解し、説明することができる			小テスト実施①			
2	1. 人と感染症 ④感染症の分類 P.88~93 【到達目標】感染症の分類について理解し、説明することができる			小テスト実施②			
3	2. 病原微生物 ①微生物の種類 ②微生物の形と大きさ ③微生物の構造 ④微生物の増殖と環境の影響 P.94~99 【到達目標】微生物の種類および微生物の形、大きさ、構造、微生物の増殖と環境の影響について理解し、説明することができる 【前期のまとめと前期期末試験対策】			小テスト実施③			
4	3. 感染症の予防 ①微生物の病原性と人体の感受性 ②汚染、感染、発病 ③常在細菌叢 ④免疫と予防接種 P.100~106 【到達目標】微生物の病原性と人体の感受性、汚染、感染、発病の定義、常在細菌叢について理解し、説明することができる			小テスト実施④			
5	3. 感染症の予防 ①微生物の病原性と人体の感受性 ②汚染、感染、発病 ③常在細菌叢 P.100~104 【到達目標】微生物の病原性と人体の感受性、汚染、感染、発病の定義、常在細菌叢について理解し、説明することができる			小テスト実施⑤			
6	3. 感染症の予防 ④免疫と予防接種 ⑤感染症発生の要因 P.104~110 【到達目標】免疫と予防接種および感染症発生の要因について理解し、説明することができる			小テスト実施⑥			
7	3. 感染症の予防 ⑥感染症予防の三原則 P.111~114 【到達目標】感染症予防の三原則について理解し、説明することができる 【後期のまとめと後期期末試験対策（模擬試験）】			小テスト実施⑦			
	学科試験						
到達目標	理容師として必要な感染症に関する知識（具体的な予防策を含む）を身につけることにより、卒業後に進む理容業界で即戦力となる知識を習得する						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント						

学科	理容科	担当教員	中塚				
科目名	衛生管理（衛生管理技術）	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15		
教育目標・ねらい	消毒法の種類や特徴、消毒に必要な条件、理容所における衛生管理技術の実例に関する知識を身につけることで、理容師として安心、安全かつ衛生的に施術することができる						
授業回	学習内容			備 考			
1	衛生管理技術 消毒法総論① 消毒とは? 【到達目標】微生物と人との関係、ヒトの防衛力、消毒に必要な条件、病原微生物の抵抗力、消毒の原理について理解し、説明することができる						
2	衛生管理技術 消毒法総論② 理容業務との関係 【到達目標】消毒薬の長所・短所について把握し、理容所での器具や布片類をはじめとする設備に対しての適切な消毒薬、消毒に関連する法の規定、消毒の重要性と怠った場合の危険性について理解し、説明することができる			小テスト実施			
3	衛生管理技術 消毒法総論③ 消毒法と適用上の注意 【到達目標】理学的消毒法の特徴 化学的消毒法の特徴（長所・短所を含む）について理解し、説明することができる。また、適切な消毒薬が効果的に作用する温度や時間や希釈方法について理解し、説明することができる 消毒法総論のまとめと前期期末試験対策（模擬試験）						
4	衛生管理技術 消毒法各論 ①理学的消毒法 ②化学的消毒法 【到達目標】理学的消毒法、化学的消毒法の用途、殺菌効果、長所と短所について理解し、その原理と応用について説明できる						
5	衛生管理技術 消毒法各論 ①すぐれた消毒法とその実施上の注意 ②各種消毒液 【到達目標】すぐれた消毒法の条件と消毒を行う際の注意事項、消毒の原則、器具や布片の消毒と注意点、消毒液の濃度、希釈の方法、器具の使い方、各種消毒液の調整法と計算の仕方について説明できるについて理解する			小テスト実施			
6	衛生管理技術 理容所・美容所の消毒の実際（実践例） 【到達目標】理容の業務と消毒の関係、消毒法と適用上の注意、理学的消毒法・化学的消毒法の消毒条件、特徴、すぐれた消毒方法と実施上の注意点について理解し、説明することができる 消毒法各論と実践例のまとめと後期期末試験対策（模擬試験）			小テスト実施			
7	衛生管理技術全体のまとめと国家試験対策 【到達目標】消毒法について、数ページにまとめることができ、国家試験対策に利用できるようになる						
	学科試験						
到達目標	理容所における衛生管理技術の実例を学び、具体的な対策を理解することで、卒業後に進む理容業界で即戦力となる知識を習得する						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント 						

学科	理容科	担当教員	齋藤				
科目名	保健（人体）	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	15		
教育目標・ねらい	最終的には国家試験問題を全問正解することが目標であるが、それだけではなく、人体の構造を学ぶことにより理容人として、人間の美と健康に携わる職業であることの自覚を持ってもらう。また、自分の身体の健康や接客時のお客様との会話の中でも常識として理解を深めていただきたい。						
授業回	学習内容			備 考			
1	<p>健康とはなにか？理容師が保健を学ぶ理由について考える。</p> <p>【到達目標】</p> <p>国家試験科目でもあるが、「人体」を理容師としてなぜ学ばないといけないかを理解する。</p>						
2	<p>第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学</p> <p>1. 人体各部の名称 2. 頭部、顔部、頸部の体表解剖学</p> <p>【到達目標】顔のランドマークをしっかりと覚え、施術時の基準としても使用できるよう理解する。</p>						
3	<p>第2章 骨格器系</p> <p>1. 骨の種類と構造</p> <p>【到達目標】</p> <p>人体の骨格の種類や骨の構造や働きを学ぶ。</p>						
4	<p>第3章 筋系</p> <p>筋の種類と構造</p> <p>【到達目標】</p> <p>人体の筋肉の種類や筋の構造や働きを学ぶ。また、顔面の表情を作る筋を覚える。</p>						
5	<p>第4章 神経系</p> <p>神経系の成り立ち</p> <p>【到達目標】</p> <p>人体の神経の種類や神経の構造や働きを学ぶ。</p>						
6	<p>第5章 感覚器系</p> <p>【到達目標】</p> <p>五感といわれる視覚・嗅覚・聴覚・味覚・平衡感覚について学ぶ。</p>						
7	<p>第6章 血液・循環器系 血液のあらまし</p> <p>【到達目標】</p> <p>血液の成分や働きを覚える。</p>						
	学科試験						
到達目標	国家試験に合格できる内容を学習						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	日本理容美容教育センター指定教科書						

学科	理容科	担当教員	古荘				
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15		
教育目標・ねらい	皮膚・毛髪の構造や役割などについて、理容業務（パーマ、ヘアカラー、シェービングなど）において支障が出ない様、正しく理解する。						
授業回	学習内容			備 考			
1	皮膚の構造① 表皮について。 表皮の構成成分、構造、表皮にある皮膚付属器官についてを理解する。			プロジェクト使用 (基本的に全回)			
2	皮膚の構造② 真皮について 真皮の構成成分、構造、真皮にある皮膚付属器官についてを理解する。						
3	皮膚の構造③ 皮下組織について 皮下組織の構成成分、構造、皮下組織にある皮膚付属器官などの理解。 皮下脂肪と人体の循環器の関連性についての理解。			第1章 小テスト実施			
4	皮膚付属器官の構造 毛について 毛髪についての構造、構成成分、性質などの理解。			小テスト実施			
5	皮膚付属器官の構造 皮膚の神経について 皮膚と皮膚付属機関の生理機能について 汗腺、皮膚神経、皮膚反射などについて			小テスト実施			
6	皮膚と皮膚付属器官の生理機能 皮膚の保護作用（機械的外力、紫外線、化学的刺激、細菌、微生物など）			小テスト実施			
7	皮膚と皮膚付属機関の保健 皮膚と体調との関連性について。			小テスト実施			
	1年次前期末学科試験						
到達目標	皮膚や付属器官について一通り理解する事で、サロンでのお客様の状況に応じた対応、施術が出来ることを目指す。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント						

学科	理容科	担当教員	吉莊				
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15		
教育目標・ねらい	皮膚・毛髪の構造や役割などについて、理容業務（パーマ、ヘアカラー、シェービングなど）において支障が出ない様、正しく理解する。						
授業回	学習内容			備 考			
1	前期の復習、練習問題実施			小テスト実施			
2	皮膚と皮膚付属器官の保健 皮膚・付属器官とホルモン			小テスト実施			
3	皮膚と皮膚付属器官の保健 皮膚の保護と手入れ（ひげ剃り後、フケ症、汗、紫外線など）			小テスト実施			
4	皮膚付属器官の構造 皮膚付属器官の生理機能 ⇒爪について 皮膚付属器官の保健			小テスト実施			
5	皮膚と皮膚付属器官の疾患 皮膚疾患 総論 内因（内的要因）による疾患			小テスト実施			
6	皮膚と皮膚付属器官の疾患 外因（外的要因）による疾患			小テスト実施			
7	皮膚と皮膚付属器官の疾患 毛の疾患、皮膚の腫瘍			小テスト実施			
	1年次後期末学科試験						
到達目標	皮膚や付属器官について一通り理解する事で、サロンでのお客様の状況に応じた対応、施術が出来ることを目標とする。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本理容美容教育センター指定教科書 ・配布プリント 						

学科	理容科	担当教員	村田				
科目名	香粧品化学	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15		
教育目標・ねらい	香粧品に用いられる薬剤の成分や効能を学ぶことを通して理容師・美容師に必要な化学的分野の知識習得を目指す。						
授業回	学習内容			備 考			
1回	導入、香粧品の定義：香粧品を取り扱うことにあたって必要な法律や注意点を学ぶ。 【基礎化学】物質の構成						
2回	香粧品の取り扱い：保存や用法、適正な使用方法を学ぶ。 【基礎化学】						
3回	水性原料、油性原料：香粧品の主原料となる成分の種類や特徴を学ぶ。						
4回	界面活性剤：4種類の界面活性剤の特徴、使用用途を学ぶ。						
5回	色材・香料：香粧品のアクセントとなる香料の原材料、色材の特徴や長所と短所を学ぶ。						
6回	配合成分：香粧品の品質維持の必要な防腐剤・殺菌剤・紫外線吸収剤・酸化防止剤・收敛剤などについて学ぶ。						
7回	ネイル・まつ毛エクステンション材料：近年増加してきたマツエクの注意点・安全性などについて学ぶ。 【基礎化学】酸・塩基						
8回	学科試験						
到達目標	理容師・美容師の通常業務における使用薬剤などの効能や手法などの知識習得						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	香粧品化学（日本理容美容教育センター指定教科書）						

学科	理容科	担当教員	村田				
科目名	香粧品化学	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15		
教育目標・ねらい	香粧品に用いられる薬剤の成分や効能を学ぶことを通して理容師・美容師に必要な化学的分野の知識習得を目指す。						
授業回	学習内容			備 考			
1回	基礎香粧品：洗浄用香粧品・化粧水・クリームや乳液の効果や成分について学ぶ。						
2回	メイクアップ用香粧品：ファンデーションやアイメイクアップ用品の配合成分や分類について学ぶ。【基礎化学】酸化・還元						
3回	シャンプー剤：頭皮毛髪の洗浄・健康維持のための用品についてシャンプー・リンス・トリートメントについて学ぶ。						
4回	パーマ剤：パーマの手法とそこに用いる薬剤の効能・注意点を学ぶ。【基礎科学】酸化・還元						
5回	ヘア・カラー：染毛の機序と染毛剤の種類とその特徴を学ぶ。						
6回	特殊香粧品：スキンケアとしてのサンケア製品の特徴を学ぶ。						
7回	芳香製品：香水やコロンなど、芳香製品の分類・特徴を学ぶ。						
8回	学科試験						
到達目標	理容師・美容師の通常業務における使用薬剤などの効能や手法などの知識習得						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	香粧品化学（日本理容美容教育センター指定教科書）						

学科	理容科	担当教員	坂上				
科目名	文化論	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	14		
教育目標・ ねらい	理容師・美容師の仕事の中でお客様とのコンセンサスを得たうえで、技術を提供することは大変重要である。この文化論にはコンセンサスを得るためのヒントや、創造の幅を広げるエッセンスが多く存在していることから、基本を知り、経験の中で理解を含めさせれるようにしていく。						
授業回	学習内容			備 考			
1回目	教科書オリエンテーション、文化論で何を学ぶか						
2回目	理容業・美容業の発生、ファッション文化史日本編						
3回目	中世の時代から江戸時代までの髪型と服装、						
	学科試験						
4回目	明治・大正・昭和前期までの髪型と服装について						
5回目	1945年から1950年代のファッション文化について						
6回目	1960年代以降のファッション文化について						
	学科試験						
到達目標	時代、時代における流行の背景やファッション文化について知識を深める。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	理容文化論（日本理容美容教育センター指定教科書）						

学科	理容科	担当教員	大草				
科目名	文化論 (ファッショニ学/理容色彩学)	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16		
教育目標・ ねらい	ファッショニの基礎、歴史を学ぶことにより、理容美容とファッショニがどう関係してお り、どのように活かせるのかを学ぶ。						
授業回	学習内容			備 考			
1	・色の機能（色の持つ役割、機能）						
2	・光の性質（光、色と波長、スペクトル）						
3	・視覚系の構造と色、照明						
4	・色の心理的効果、視覚効果						
5	・マンセル表色系						
6	・色彩調和（自然から学ぶ配色、配色技法）						
7	・配色イメージ						
8	・ファッショニにおける色彩						
到達目標	理容師としての専門的な知識だけでなく、お客様へのコーディネイトのできる知識をファッ ショニを通して身に着ける。						
評価方法	提出課題（作品）(80%)、リアクションペーパー(20%)、出席状況、受講態度等を考慮して成 績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象とはしない。						
テキスト	各授業枚にテキスト用意。プロジェクター使用。						

学科	理容科	担当教員	畠中				
科目名	運営管理	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	15		
教育目標・ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。						
授業回	学習内容			備 考			
1	<p>ドメイン設定と理容室業界の損益計算の指標について 【到達目標】 ・マーケティングとは何か、ターゲットを細分化して決めることが出来るようになる。 ・店舗の経費配分の比率が分かるようになる。</p>						
2	<p>貯金の大切さの周知と班別に創作したコンセプトの確認 【到達目標】 ・どのように差別化された店舗コンセプトを作ったら良いのかを説明できるようになる。</p>						
3	<p>班別に創作したコンセプトの確認（前回の続き） 【到達目標】 ・どのように差別化された店舗コンセプトを作ったら良いのかを説明できるようになる。</p>						
4	<p>班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認（前編） 【到達目標】 ・なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。</p>						
5	<p>班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認（中編） 【到達目標】 ・なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。</p>						
6	<p>班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認（後編） 【到達目標】 ・なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。</p>						
7	<p>班ごとに作成した仮想店舗の損益計算の確認（最終） 【到達目標】 ・なぜこのぐらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。</p>						
	学科試験						
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を仮想体験する。特に1年生では差別化やコンセプト設定などの理解を深める。						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、その他、授業内での班ごとの指導時にやりとりした内容によって評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	運営管理（日本理容美容教育センター指定教科書） 当方が準備するプリントをコピーして頂いて、配布して使用						

学科	理容科	担当教員	池田・古市		
科目名	理容技術理論	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	60
教育目標・ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようになる。				
授業時間数	学習内容			備 考	
1	理容技術の基礎	(1) 人体の各部の名称 (2) 理容技術における技術姿勢 (3) 理容技術とトレーニング 【到達目標】理容師として正しい姿勢での技術と人体の各部の名称を覚え使用することができる			
2	理容マッサージ	(1) マッサージの意義と効果 (2) 理容マッサージのミニピュレーション 【到達目標】マッサージ理論および手技と、その効果を説明することができる			
3	理容用具	理容用具の名称 ～シザース、レザー、クリッパー、コーム、ブラシ、ヘアアイロン、ヘアドライヤー～ 【到達目標】理容師が使う道具の名称を覚え、安全に操作することができる			
4	シャンプーイング＆リンシング	(1) シャンプーイングの方法 (2) シャンプーイングの技法 (3) リンシング 【到達目標】シャンプー理論及び手法とその効果を説明することができる			
5	ヘアトリートメント	(1) ヘアトリートメントの種類 (2) ヘアトリートメントの一例 【到達目標】ヘアトリートメント理論及び手技とその効果を説明することができる			
6・7	ヘアカッティング	(1) ヘアカッティングの基本原則 (2) デザインヘアのスタイル別カットシステム (3) デザインヘアカットの一例 【到達目標】スタイル別のヘアカッティング理論及びそのヘアスタイルの特徴を説明することができる			
8	パーマネントセット	(1) パーマネントウェービング (2) ワインディング (3) アイアニング (4) デジタルパーマ 【到達目標】パーマネントを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明することができる			

授業時間数	学習内容		備 考
9	ヘアカラーリング	(1) 色彩の原理 (2) 染毛剤の種類と原理 (3) 染毛剤の安全性と取扱上の注意 (4) ヘアカラーリング技術プロセス 【到達目標】ヘアカラーリングを施術するうえで必要な薬剤の知識、種類、効果効能などを説明す	
10・11	シェーピング	(1) シェーピングの要件 (2) シェーピングの種類 (3) シェーピングの基本技術と要領 (4) シェーピングプロセス 【到達目標】シェーピングを安全に正しく施術できるために必要な理論及び技法を説明することが	
12	理容エステティック	(1) スキンケア (2) フェイシャルケア 【到達目標】シェーピング前後のお肌のケアについて正しく施術できるために必要な理論及び技法を説明することができる	
13・14	ヘアカッティング	(1) ヘアカッティングの基本原則 (2) ヘアカッティングの一般手順 【到達目標】ヘアカッティング理論及びそのヘアスタイルのデザインする上での技法とその特徴を説明することができる	
15	学期末試験	学科試験	
到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的知識を習得する。		
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。		
テキスト	「理容技術理論1・2」（日本理容美容教育センター指定教科書）		
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う		

学科	理容科	担当教員	池田・古市		
科目名	理容実習	学 年	1	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	540
教育目標・ ねらい	理容技術理論の基礎とともに、技術内容ともあわせて理解することが出来るようする。				
授業回	学習内容			備 考	
1~7	基礎トレーニング	正しい道具の持ち方や使用方法ならびに正しい作業姿勢を教科書に沿って学ぶ 【到達目標】理容師としての基礎的知識技能を習得する			14時間
8~21	理容マッサージ・シャンプー	マッサージ・シャンプー理論及びマッサージ・シャンプー技術を習得する 【到達目標】お客様に快感を与えられるマッサージ・シャンプー技術並びに好感を持たれる接客力を習得する			28
22~44	セイムレイヤー	セイムレイヤーカットの特徴である全ての毛髪が同じ長さで切り揃えられるよう、ヘアカッティング理論と技術を習得する 【到達目標】セイムレイヤーカットを失敗しないためには、どのようにすれば良いのかを説明することができる			46
45~66	ワンレングスカット	ワンレングスカットの特徴である同一線上のカットラインを表現できるよう、ヘアカッティング理論と技術並びにドライヤーとヘアブラシによるプローセット理論及び技術を習得する 【到達目標】50分間で、ワンレングスのカッティング及びプロースタイリングをすることができる			44
67~91	ミディアムカット	国家試験合格を見据えながらミディアムカットスタイル（試験課題）をデザインするために必要なヘアカッティング理論とスタンダードヘアカット技術の習得 【到達目標】30分間で、ミディアムカット及び整髪をすることができる			50
92~112	グラデーションカット (インサイド・アウトサイドグラデーション)	グラデーションスタイルの特徴である段差の種類を学ぶ（インサイド・アウトサイド）ことで、グラデーションカットデザインの幅を理解し、目的に合わせて使い分けらるよう理論及び技術を習得する 【到達目標】85分間で、グラデーションボブスタイルのカッティング及びプロースタイリングをすることができる			42

授業回	学習内容		備 考
113～146	ワインディング	パーマネントウェーブ技術に必要な理論ならびにワインディング技術（上巻き、下巻き）を習得する 【到達目標】35分間でCライン巻きをすることができる	68
147～185	シェービング	シェービング理論と技術の習得及びシェービングの事前事後のお肌のケアについての理論と技術の習得 【到達目標】お客様に快感を与えられるシェービング理論と技術の習得とお客様から好感を持たれる接客ができる	78時間
186～191	カラーリング	ヘアカラーリングの技術に必要な理論ならびに基本の塗り方を習得する 【到達目標】トーンアップ、ハイライト、オンカラーでカラーリングによりデザインされた作品を創ることができる	12
192～197	レザーカット	カッティングレザーのみを使用したデザインカットをするために必要な理論ならびにレザーカットテクニックを習得する 【到達目標】カッティングレザーのみでカッティング及びブロースタイリングをすることができる	12
198～202	コンテストスタイル	クリエイターとしてクリエイティブな作品を作るために必要な応用技術を習得する 【到達目標】今まで学んできた基礎技術を応用し、コンテストのテーマに合わせて作品を制作することができる	10
203～270	コース選択 (スタイリスト)	ヘアデザインに必要な応用する力と想像力を高めるために必要な基礎的知識、技能を修得する 【到達目標】ヘアスタイルを立体的に観測し、ヘアデザインの構造と技法を読み解く能力を活かし、ヘアスタイルをカタチにすることができる	136
	コース選択 (リラクゼーション)	女性に施術することを目的としたシエステ(＝シェービングエステ)及びネイル、メイクの基礎的知識、技能を修得する 【到達目標】肌質やスキントラブルを分析し、シエステを駆使しながらモデルの肌を美しくすることができます。また、ネイルやメイクなども加えることにより、トータルビューティーまで発展させた立案・提案ができる	

到達目標	理容技術は、人を対象として直接皮膚に触れたり、刃物を使うことから、どの技術も習練が必要であり、何より安全性が必要とされる。そのために技術理論の意義を十分理解し、理容師としての基礎的技能を習得する。
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる理容師養成の観点から授業を行う

学科	理容科	担当教員	大草				
科目名	理容美術（造形学）	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	講義及び演習	必修・選択の別	必修	授業時間（単位）	22		
教育目標・ねらい	サロンモデル開発に伴い店舗開発表現方法としての透視図法、画材を用いての着彩テクニック、付帯する店舗案内表示などの表現方法の実施。						
授業回	学習内容			備 考			
1	ibis paint（アプリ）の操作方法の指導と共に店舗デザインの具体的な表現指導。 【到達目標】透視図法の理解及びプリントでの制作			プリント、筆記具、直定規など			
2	ibis paint（アプリ）の操作方法の指導と共に店舗デザインの具体的な表現指導。 【到達目標】透視図法の理解及びプリントでの制作			同上			
3	ibis paint（アプリ）の操作方法の指導と共に店舗デザインの具体的な表現指導。 【到達目標】透視図法の理解及びプリントでの制作			同上			
4	ibis paint（アプリ）の操作方法の指導と共に店舗デザインの具体的な表現指導。 【到達目標】透視図法の理解及びプリントでの制作			同上			
5	ibis paint（アプリ）の操作方法の指導と共に店舗デザインの具体的な表現指導。 【到達目標】透視図法の理解及びプリントでの制作			同上			
6	“アイデアを表現する -1”： チョークアートの表現方法及び書体の理解を促す。 【到達目標】透視図法の理解及びプリントでの制作			同上			
7	“アイデアを表現する -2”： チョークアートの表現方法及び書体の理解を促す。 【到達目標】透視図法の理解及びプリントでの制作			同上			
8	“アイデアを表現する -2”： チョークアートブラッシュアップ 【到達目標】 ibis paint（アプリ） 内での作業			同上			
9	“アイデアを表現する -3”： チョークアートブラッシュアップ 【到達目標】 ibis paint（アプリ） 内での作業			同上			
10	“アイデアを表現する -4”： チョークアートブラッシュアップ 【到達目標】 ibis paint（アプリ） 内での作業			同上			
11	“アイデアを表現する -5”： チョークアートブラッシュアップ 【到達目標】 ibis paint（アプリ） 内での作業			同上			
到達目標	自分のアイデアをラフスケッチからより具体的な表現へと結びつけアイコンや書体、色彩、レイアウトなどデザインとは何かを知り、明確な伝達方法の手段を促すと共にibis paint（アプリ）の習得を促す。						
評価方法	提出課題（作品）（80%）、リアクションペーパー（20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象とはしない。						
テキスト	各回必要に応じての各プリント配布						

学科	理容科	担当教員	永岑				
科目名	理容美術（店舗設計）	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	演習	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	8		
教育目標・ねらい	店舗設計を通じて、お客様（社会）が求めるサロンを自らが考える力を身につける						
授業回	学習内容			備 考			
1・2	最新の店舗デザインと理美容業界のマーケティング						
	【目標】様々な店舗を知り、将来造りたい（勤めたい）サロンをイメージする						
	【目標】理美容業界の過去の変遷を学び、今後の社会が望むサロンづくりを考える						
3・4	店舗に関わる法的概要と店舗レイアウトの考え方						
	【目標】理美容師法を理解し、開業時に必要な事項を身に付ける						
	【目標】行動学・心理学に基づき、儲かる店のレイアウトの考え方を身に付ける						
5・6	色と光（照明）の基礎知識と演出手法と各講義の理解度テスト						
	【目標】色は光に依って見え方が変わり、技術がより良く見える演出手法を身に付ける						
7・8	最新サロンの実例紹介とチャレンジカップに向けた店舗イメージの構築						
	【目標】自ら考えるサロンをプレゼンテーションするスキルを身に付ける						
到達目標	各講義の基礎知識を身に付け、チャレンジカップに向けた店舗デザインイメージを構築する						
評価方法	ペーパーテスト（80%）、リアクションペーパー・小テスト（20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	パワーポイントでの映像およびプリント						

学科	理容科	担当教員	漆原				
科目名	表現技術 (簿記)	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	16		
教育目標・ ねらい	サロン経営に必要な財務的視点の習得						
授業回	学習内容			備 考			
1	・簿記の基本的な考え方、勘定科目について 【到達目標】 資産・負債・資本・収益・費用に属する勘定科目に関する知識の学習し、正しく説明することができる。						
2	・財務三表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の概要） 【到達目標】 簿記の基礎的事項である借方・貸方の意味を理解し、損益計算書・貸借対照表の体系を把握し、正しく説明することができる。						
3	・収益構造（店舗経営における、財務的視点） 【到達目標】 収益・費用の種類と認識・測定の基準を学習し、様々な形態の収益について、実現主義を適用する際の工夫や実現主義の例外として利益に発生主義や現金主義を適用する例を理解し、正しく説明することができる。						
4	・損益分岐点（損益分岐点及び不隨する事項における店舗経営の実例） 【到達目標】 損益計算書の意義を理解し、作成方法を理解し表にすることができる。						
5	・売上・経費・収支計算（チームごとに店舗経営のシミュレーション資料作成） 【到達目標】 キャッシュフロー計算書の目的と構造をに関する知識の学習し、正しく説明することができる。						
6	・売上・経費・収支計算（チームごとに店舗経営のシミュレーション資料作成） 【到達目標】 営業活動によるキャッシュフローの区分の記入法に直接法と間接法があり、これらを比較することにより、計算書に関する知識を深く学習し、正しく説明することができる。						
7	復習						
8	グループワーク						
到達目標	グループごとに店舗の収益構造・価格設定・事業計画策定をしっかり理解できるようになる						
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。						
テキスト	授業毎にプリント配布						

学科	理容科	担当教員	池田、吉田				
科目名	表現技術 (情報処理 O A)	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	14		
教育目標・ ねらい	具体的な店舗企画開発をチームで創出・プレゼン発表することにより、技術者本位ではなくお客様目線でのサロンサービスとは何か、その本質を知り得る。						
授業回	学習内容			備 考			
1	ウインドウズ基本操作のネット活用読み解く 【到達目標】ウインドウズを使用しパソコンの使い方に慣れ、Word・Excel・PowerPointの特性を理解し操作することができる。						
2	・パワーポイントの基本操作 (スライド作成、編集、画像の挿入、アニメーション設定) 【到達目標】架空のヘアサロンをプレゼンテーションするための資料を作成することができる。						
3	①何のためにプレゼンするのか、プレゼンの構成を考える。 ②テンプレート書式から発表用のスライド構成を組み立てる。 【到達目標】自分本位のプレゼンではなく、誰が得する発表なのかを理解できる。			グループワーク			
4	①伝わるスライドづくり、資料のブラッシュアップ。 ②提案サロンの強み、メニューの魅力、顧客のメリットを言語化。 【到達目標】単なる資料の読み上げでないこと、ライブ発表ゆえの意義を正しく理解できる。			グループワーク			
5	①プレゼンの実践：第一回目、発表の原稿づくりとフィードバック。 ②スライドごとの抑揚、一番伝えたいことを明確化。 【到達目標】発表の実際を知る。人にどう伝わっているのか、意見や指摘を受け入れ、次回までに改善できるようにする。			グループワークと模擬発表			
6	①プレゼンの実践：第二回目、要点の絞り込みとフィードバック。 ②改善点を活かし、制限時間内での発表、内容を要約する。 【到達目標】本番通りの会場、マイクを使い、つかみ・本題・まとめの話しができる。自分の企画に自信をつける。			グループワークと模擬発表			
7	①プレゼンの本番：役割分担、時間配分、効果的な見せ方を愉しむ。 ②他グループの模擬審査と最終的なフィードバック。 【到達目標】人前でも堂々とワクワクしながら発表できる。礼節を持ったプレゼンテーションができるようになる。			プレゼン発表			
到達目標	チャレンジカップで、理容の魅力が正しく伝わるプレゼンテーション力を身につける。 夢のサロン企画を通して、実社会から求められる店舗のあり方を体得する。						
評価方法	プレゼン発表資料の見やすさ、伝わりやすさ、企画内容のわかりやすさ、発表時の態度、言葉遣い、そのプレゼンテーションを通して「心が動かさせるかどうか」など総合的に評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	吉田昌央術式「プレゼン力を身につける」スライド資料の提供 前年のプレゼン企画を題材に資料作成の「型」を理解						

学科	理容科	担当教員	池田・古市		
科目名	ビジネスマインド (ビジネスマナー)	学 年	1年	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	45
教育目標・ ねらい	社会的コミュニケーションの基礎となる相手への気配り・心配りの意義を深く理解する。 そして、それを形として表現するための各種技法の意味を理解し、適切に実践できるようになる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	LESSON1 ビジネスパーソンとは 「1-1学生と社会人との違い」 【到達目標】→職業人としての自覚を芽生えさせる。			ビジネス マナーテキスト p1~2	
2	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い 「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】→『品性』のある身のこなしを学び、実践する。			ビジネス マナーテキスト p9~13	
3	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」 時間意識 納期意識 健康意識 【到達目標】→『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネス マナーテキスト p5~6	
4	LESSON3 言葉遣い① 「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック・、 3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】→職業人（美容師）としての言葉の使い方を学び、表現できる。			ビジネス マナーテキスト p3.p17 ～24	
5	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-3 NG行動、1-5 話の聞き方、1-6 笑顔」 【到達目標】→良質なコミュニケーションを築くための基本マナーを知る。 加えて、「話し手」と「聞き手」のマナーを知る。			ビジネス マナーテキスト p 4.7~8	
6	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上手のコミュニケーション、6-3PDCA」 【到達目標】→職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。			ビジネス マナーテキスト p 51～ 54	
7 (6時間)	宿泊オリエンテーション				
8 (6時間)	宿泊オリエンテーション				
9	宿泊オリエンテーション 振り返り LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」 目標意識 顧客意識			ワークシート テキストP5～6	
10	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」 協調意識 改善意識 【到達目標】→『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネス マナーテキスト p 5～6	
11	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」 品質意識 コスト意識 【到達目標】→『9つの意識』を理解し、学園生活での行動にも活かせるよう にする。加えて、正しい価値観・職業観を学ぶ。			ビジネス マナーテキスト p 5～6	

授業回	学習内容	備 考
12	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 「6-4 コンプライアンスとは、6-5 公私の区別、6-10 SNSの使い方とマナー」 【到達目標】→守るべき行動規範を理解し、社会の一員としてモラルを守って生活することができる。	ビジネス マナーテキスト p 55～56.68～69
13	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応① 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】→接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネス マナーテキスト p 25～40
14	クラス目標・個人目標振り返り LESSON4 来客対応② 「4-1 方向や商品の示し指し、4-2 案内誘導、4-3 飲み物の提供、4-4 物の授受、4-5 お会計、4-6 お出迎え・お見送り」 【到達目標】→接遇リテラシーを習得し、実務実習で実践する。	ビジネス マナーテキスト p 25～40
15	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応① 「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】→接遇リテラシーを習得し、入店（就職）後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p 41～49.70～71
16	クラス目標・個人目標振り返り LESSON5 電話対応② 「5-1 基本、5-2 実施フロー、5-3 こんなときどうする？、5-4 予約の受け方、5-5 アポイントメントの受け方、6-11 クレーム対応」 【到達目標】→接遇リテラシーを習得し、入店（就職）後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p 41～49.70～71
17	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー① 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】→ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、入店（就職）後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p 56～67
18	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー② 「6-6 頂き物の取り扱い、6-7 共有スペースでのマナー、6-8 名刺交換」 【到達目標】→ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、入店（就職）後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p 56～67
19	実務実習事前指導	ワークシート グループワーク
20	実務実習事後指導	ワークシート グループワーク
21	クラス目標・個人目標振り返り LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー③ 「6-9 手紙の書き方」 【到達目標】→ビジネスパーソンとしての基本マナーを学び、入店（就職）後に実践できるようにする。	ビジネス マナーテキスト p 64～67
22	就職活動（サロン説明会、サロン見学など）にて、先方に訪問した際の演習① ・「振る舞い」　・「表情」　・「言葉遣い」	

授業回	学習内容	備 考
23	就職活動（サロン説明会、サロン見学など）にて、先方に訪問した際の演習② ・「質問」　・「インタビュー」　・「聞く」	
到達目標	実務実習・学外実習等、学外で店舗顧客と相対する際、学んだ知識、技術そして心構えを適切に活かして顧客からの信頼を得ることができる。	
評価方法	実務実習・学外実習等における実習指導者の評価及び個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	ビジネスマナーテキスト	

学科	理容科	担当教員	井川				
科目名	ビジネスマインド (広告・宣伝)	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	講義・演習・(グループワーク)	必修・選択の別	必修	授業時間(単位)	10		
教育目標・ねらい	この授業では、デジタル社会におけるマーケティングと広告戦略に必要な基礎知識を習得します。デジタルツールを活用して顧客と円滑なコミュニケーションを図る方法について解説。ターゲットが求める情報を配信する「伝える力」について学びます。また脳科学マーケティングの視点から消費者心理にフォーカスし、デジタル時代にあった広告戦略について考えていきます。授業の後半では、コピーライティングについて学び、成果物として自身のポートフォリオをホームページとして制作、授業で学んだ知識や技術を実践的に活用します。						
授業回	学習内容			備 考			
1	[情報活用能力の向上] 授業では、デジタルメディアの活用に焦点を当てます。SNSやメールマーケティングなどのデジタルチャネルを利用して、効果的なコミュニケーション戦略を学び、顧客との関係構築のスキルを身につけます。さらにクラウドを活用して学習データを管理・共有し、情報の効率的な活用方法を学びます。			・参考資料 東洋経済「業界地図」、 ベネッセ「美容業界データ」、GoogleCloud			
2							
3	[広告と脳科学マーケティング] 脳科学の観点からのマーケティング戦略や消費者の心理について理解を深め、その知識を実際の広告制作に活かす方法を学びます。また広告の成功事例を紹介して、その魅力と効果の理由を分析していきます。			「お客様を虜にする7つのトリガー」サリーフォッグスヘッド、 「影響力の武器」ロバートチャルディー			
4							
5	[セールスマイティング] 魅力的なコピーを作成するためのセールスマイティング技術を学びます。 ①セールスマイティングの基本原則と構成②読者分析とメッセージ作成③注意を引く見出しとリード④興味を持たせるストーリー⑤行動に誘導する文章の書き方解説します。			「セールスマイティング」レイ・エドワード 生成AI使用予定			
6							
7	[デジタルツール活用／ホームページ作成] この授業では、HP作成ツールCMSを使って自身のポートフォリオを作成します。ウェブサイトのデザインやレイアウト構築に必要な知識を習得します。タイトル、見出し、本文、写真、フォームボタンなど制作の一部は生成AIを使用して作業時間の効率化を図ります。			サイト作成ツール予定 jimdo、wix、GoogleSite 生成AI使用予定			
8							
9	「プランディングデザイン開発プログラム」発表に向けてのツール制作 現在の美容市場、理美容サロンの状況と課題の把握する。 顧客ニーズと市場の動向を調査。サービス提供の対象となるターゲット顧客を選定。サロンの特徴や差別化ポイント(USP)、提供するサービス内容や価値を検討。店舗の物理的なデザインや配置計画を立案する。 SNSやウェブサイトを活用したマーケティング手法を考える。			「セールスマイティング」レイ・エドワード サイト作成ツール(予定) jimdo、wix、googlesite			
10							
到達目標	[情報活用能力の向上] 必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理ができ、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達することができるようになる。また自身の学びや仕事に活かすことができる。 [広告と脳科学マーケティング] 広告を学ぶことで学生は人の心理や行動に深い関心を持つようになり、洞察力が増しコミュニケーション能力が向上します。 [セールスマイティング] ウェブサイトやブログ、SNS等で発信するときに相手の興味や関心を引きつける文章が作成できる。 [デジタルツール活用／ホームページ作成] 自身のブランドや考えをオンラインで紹介し、集客や販売に活用することができる。						
評価方法	単元の終了時にはオンラインで確認テストを実施予定。また、リアクションペーパー・小テスト(20%)、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	前日にメールでデータ送信、資料(A4 2P～程度) 予定						

学科	理容科	担当教員	池田・古市				
科目名	ビジネスマインド (サロン説明会)	学 年	1	実施時期	前期		
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	20		
教育目標・ ねらい	理容師としてのキャリアを早期に考える事で学ぶ目的が明確化し、実務実習に向けて、計画を立て行動していくことをねらいとする						
授業時間数	学習内容			備 考			
1~7	〈サロン説明会〉 様々な業態の理容サロンを招き、各サロンの特徴を知る。このことを通して理容サロンの幅広い業態ならびに理容業界の理解を深める。						
7	〈サロン説明会報告会〉 グループワークを通して各サロンの説明内容をまとめ、各自がサロンレポートを作成する。						
8~10	〈就職指導〉 ・履歴書の書き方 ・就職内定までの計画の立案と実行と修正 ・内定のお礼状の書き方						
到達目標	各サロンの説明内容から、自身のキャリアプランから逆算して、自分の将来像に適していると思う実務実習先を自分で決めることができる						
評価方法	課題提出のサロンレポートにて評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	サロンレポート「1.2」						

学科	理容科	担当教員	立花				
科目名	高度総合理容技術理論 (毛髪化学) □	学 年	1	実施時期	後期		
授業形態	演習・実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15		
教育目標・ ねらい	現場で必要な知識と技術を実習を通して学ぶ						
授業回	学習内容			備 考			
1	スタイリング剤種類とテクスチャー			4コマ			
2	トリートメント技法の習得とUVについて			4コマ			
3	カラー理論 ブリーチ実習 ウィックでデザイン			3コマ			
4	カラー理論 ブリーチ実習 ウィックでデザイン			4コマ			
到達目標	トータルデザインのできること。また、スタイルを作るセンスと再現性のあるスタイリング剤のチョイスができること。						
評価方法	リアクションペーパー・小テスト(20%)、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数(全体の2/3)を下回る出席者は評価対象としない。						
テキスト	(株)ミューズ研究所作成テキスト□						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える						

学科	理容科	担当教員	鈴木				
科目名	高度総合理容技術実習 (香粧品の製法)	学 年	1	実施時期	前期・後期		
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12		
教育目標・ ねらい	理容師としての基礎知識（香粧品化学と連動）の集積の為、各製剤の特徴や作用の仕組みや処方の構成を理解する事を目的とする。						
授業回	学習内容			備 考			
1	①シャンプーについての講義 ②シャンプーの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）						
2	①ヘアトリートメントについての講義 ②トリートメントの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）						
3	①ヘアスタイリング剤・エアゾール講義 ②ヘアグリース・ヘアオイルの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）						
4	①染毛剤についての講義 ②ヘアマニキュア・ヘアブリーチの試作 【到達目標】各原料の役割と特徴を説明可能にする（香粧品化学と連動）						
到達目標	①各香粧品の内容物の成り立ちや使用目的を把握し説明可能にする。 ②香粧品に配合されている成分に対し配合目的を明確に説明可能にする。 ③各製剤の配合物の種類や量による性能の差異を香粧品化学の講義と連動し説明可能にする。						
評価方法	・各期実験レポート（80点満点）、及び筆記小テスト（20点満点）で評価する。なお所定授業時間数（全体の2/3）を下回る学生は受験する事ができない。						
テキスト	香粧品化学教科書 授業毎にプリント（処方）配布						
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は35年以上の化粧品製造会社の技術職勤務経験を踏まえ、実験を主体に、サロン現場で必要となる化学知識の習得を目的とした授業を行う						

学科	理容科		担当教員	池田・古市				
科目名	高度総合理容技術実習		学 年	1	実施時期 前期・後期			
授業形態	実習		必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位) 138			
教育目標・ ねらい	身に付けた理容技術の基礎的知識、技能をより実践的な場で学習することにより、ビューティークリエイターとして必要な応用力と想像力を高める。							
授業回	学習内容				備 考			
1~9	見学実習	理容サロンを見学することで業態の違いを知るとともに、実際のサロン業務の流れを知る 【到達目標】今後、サロンで活躍する為に必要な知識や技術、人間力などの課題を明確にし、能力向上に向けた計画をたてられる			18			
10~18	メンズ スタイル	3つのヘアスタイル（ロング、ミディアム、ショート）を通じて、ヘアデザインの幅を広げる 【到達目標】3つのヘアスタイルを通じてヘアスタイルのデザイン別に合わせたカッティング理論、技術を習得する			18			
19~28	美翔祭	技術ベースの企画・立案を行う。提供する技術を復習し、提供できるレベルまで到達する。 【到達目標】接客における技術力、接客力を身につける			20			
29~39	匠すと	1年間学んできたカッティング技術やプローセット技術等を使い、クリエイティブなヘアスタイルを作成するための技術を習得する 【到達目標】今まで学んできた基礎技術を使い、テーマに合わせて作品を制作することができる			22			
40~69	実務実習	理容サロンのスタッフとして、アシスタント業務を遂行し、理容師としての職業観を深めていく 【到達目標】今後、サロンで活躍する為に必要な知識や技術、人間力などの課題を明確にし、能力向上に向けて計画を立てられる			60			
到達目標	理想の理容師像に向かって、自ら必要な能力（知識、技能、人間力）を向上する為に、自分で計画を立てて学習していくことができる。							
評価方法	提出課題・作品・出席状況・受講態度等総合的に判断し評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない							
テキスト	「理容技術理論1・2」「技術テキスト」：日本理容美容教育センター指定教科書							
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の理容サロン勤務の経験を踏まえ、基礎技術をさらにブラッシュアップした創造的なスタイル作成の指導を行う							